

【内閣府・土研】SIP3の成果を紹介／シンポに約1500人参加

#点検

事業者：内閣府、(研)土木研究所

掲載日：2026年08月04日 掲載元：本社配信

内閣府と土木研究所は7月31日、「未来をカタチにする実装戦略」をテーマに「スマートインフラマネジメントシステムの構築シンポジウム2026」を東京都千代田区で開いた。戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第3期で進めるインフラ維持管理分野の研究成果や社会実装に向けた取り組み、維持管理や点検・診断など60件を超える最新技術を紹介した。会場とオンラインを合わせ約1500人が参加した。

基調講演では、慶應義塾大学理工学研究科の浅川智恵子特任教授が、視覚障害者向けナビゲーションロボット「AIスーツケース」の開発と社会実装について講演した。自身も視覚障害がある浅川氏は、盲導犬や白つえが担う「一歩先を確かめる」役割を補完するため、ウェアラブルではなくスーツケース型を採用したと説明。機器にはLiDARやRGB-D（深度）カメラ、AIなどを搭載し、センサー付きハンドルの操作により、周囲の障害物や歩行者を認識しながら利用者を目的地まで誘導する仕組みを解説した。

浅川氏は「皆さんが普通に行っていることを、新しい技術の力を借りて実現したい。フィジカルAIの急速な進化によって、それが現実になりつつある」と述べ、技術のさらなる社会実装に期待を示した。

この記事の画像（全1枚）

